

# 島根の地域医療

第64号

2018/4/10

SHIMANE  
AKAHIGE  
BANK



発行者 島根県健康福祉部  
医療政策課医師確保対策室

## 今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO.69 《出雲徳洲会病院 院長 田原 英樹》
- ◆看護師さんのページ NO.49  
《株式会社 Community Care 訪問看護ステーションコミケア 管理者/看護師 中澤 ちひろ》
- ◆研修医のページ NO.52 《島根県立中央病院地域医療・家庭医プログラム 2年目専攻医 上野 伸行》
- ◆しまね地域医療支援センターで 《しまね地域医療支援センター 清水 孝倫》
- ◆島根県赤ひげバンク



出雲徳洲会病院

院長 田原 英樹

地域医療  
最前線

No.69



私は、当院が平成18年に斐川町に開院したのきっかけに、島

根大学第2外科（現在の消化器・総合外科）から赴任しました。それまでほとんど外科だけでしたが、当院に来てからは、外科以外に、医療講演、人間ドック・健診、透析、療養病棟の開設などを行い、また、救急や開業医さんからの入院依頼は断らないことを掲げてきました。2年前は4人しか常勤医がいませんでしたが、リクルート活動が実を結び、現在は14人増えて、地域の患者さんや開業医さんに少しは貢献できていると思います。さらに満足していたために、より医師の確保が必要

最近、入院患者さんの高齢化による在宅復帰が困難になっていきます。平成30年3月16日現在、当院の入院患者さんは、一般病棟90名（89床）、療養病棟47名（47床）、回復期リハ



ビリ病棟47名（47床）とオーバーベッドの状態です。このうち治療が終了して、帰宅可能な方や医療区分が1で療養病棟の適応（今後療養病棟の医療区分1の割合が20%以下）からはずれる方の合計が46名で、全体の25%に上るといふ厳しい状態です。2月の寒冷時は、物理的にベッドがなく、救急も断らなければならぬ状態でした。行政は在宅医療を支援していますが、それを上回る勢いで、高齢化の波が押し寄せています。当院も、平成30年度から訪問看護ス

テーション立ち上げ、訪問診療・看護に力を入れて行き、さらにサービステ付高齢者住宅も計画しています。島根県のほとんどの公立病院は赤字で苦しんでいます。原因は医師不足、医療機器・材料費や人件費の高騰です。一方当院は巨大グループのスケールメリットを生かし、医療機器・材料費の抑制を行い、医師の不足時は全国のグループ病院から応援をもらい、医師が増えた最近、グループ内の喜界病院（喜界島）、沖永良部病院や神戸病院、グループ外では隠岐病院や出雲市立総合医療センターに応援に行っています。このような経営のノウハウを持っている大手民間病院を指定管理者にすることで、コスト管理、人員の相互派遣などが可能になります。実際、公立病院であった榛原総合病院（静岡県牧之原市）、和泉市立病院、生駒市立病院は徳洲会グループを指定管理者にし、軌道に乗っています。徳洲会グループは奄美・沖縄諸島間を所有の飛行機で往来しています。島根県でも、隠岐、石見、出雲空港間を飛行機で行き来し、医師等の移動をスムーズに行うことを夢見ています。



## 看護師さんのページ

No.49

株式会社 Community Care  
訪問看護ステーションコンミケア  
管理者・看護師 中澤 ちひろ

私は、神奈川県出身です。看護師

になってから、地元の中山間地域の病院で働き、患者さん一人一人と深く関わり、疾患に関してもその人を丸ごと幅広く見ていく地域医療が大好きになりました。その一方で、過疎地域の人材不足や家に帰りたいけれど帰ることができない現状も目の当たりにし、どうすればこうした課題が解決できるのだろうかと考え、ようになり、その後、広島県や途上国での地域研修を通して、医療現場にいるからこそ見えてくる課題



に対して、地域に出てアプローチしていくこと、医療職だけでなく地域全体でケアしあえる環境を作ることが大切だと感じるようになりました。そんな時、雲南市でこうした地域医療課題に対してチャレンジしようとしている仲間に出会い、この地域で活動し始めました。

私が働く、訪問看護ステーションコンミケアは鳥根県雲南市に位置しています。雲南市は、松江市と出雲市の南部に位置し、東京23区とほぼ同じ面積という広大な土地に人口3万9千人、高齢化率は36.5%、市域の大半が林野の緑豊かな地域です。当ステーションは、人材不足や一軒一軒家が離れ医療機関へのアクセスが困難な中山間地域でも、自宅で暮らしたいと望む方に看護を届けようと、雲南市、住民さん、市内のNPO、県外企業など多くの方の協力を得て、私も含めた平均年齢28歳の若手UIターン看護師3人が平成26年に開設しました。現在、スタッフも増え、雲南市での訪問看護事業を中心に地域住民主体の健康づく

り活動支援や若手医療職の交流活動などを行なっています。

在宅医療では、高齢者はもちろん、小児や精神の訪問看護の需要も高まっています。それぞれの専門性を高め、地域にいる全ての住民さんが安心して生活が送れるようスタッフ一同取り組みんでいます。その他には、

①住民の集いの場である小さな拠点作りやサロン活動、②地元の地域医療に貢献したいとUターンで県外から帰ってきた20代・30代の看護師を中心に、地域医療の魅力を伝えるため、市内の高校への出張講座や「さらさら地域医療カフェ@うんなん」という若手地域医療介護職種の交流会などを実施しています。

開設して3年の当ステーションですが、これからも「たくさんの方々の瞬間をプロデュースする」という理念のもとに、地域の皆さんや、利用者さん・ご家族さんの笑顔が見られるような心温まるケアの提供を目指して頑張っています。

## 研修医のページ

No.52

地域で働く総合医を目指して

鳥根県立中央病院地域医療・家庭医プログラム  
2年目専攻医 上野 伸行

初めまして鳥根県立中央病院2年目専攻医の上野です。私は鳥根大学を卒業後、2年間沖縄で初期研修を



して、後期研修から鳥根に戻ってきました。

今回は地域研修で浜田市にある弥栄診療所に行かせていただきましたのでご報告致します。弥栄診療所は人口1,300人程度、市内から車で30分ほど離れた山間部にある診療所です。基本的には所長が1人で診療を行っています。曜日によっては2診体制で診療を行う日もありません。業務内容としては定期外来診療に加え、エコー検査、上部・下部消化器内視鏡検査、救急診療、訪問診療、医療従事者・患者・住民教育などをしています。今回の研修では本当に多くの事を学ばせていただきました。その中で特に印象的だった事柄をご紹介します。

## 患者・家族中心の医療

○患者のニーズに応えられるように  
弥栄診療所から浜田まで約30分、小児や高齢者にとってはとても遠いため、小児疾患や簡単な皮膚科疾患、整形処置、内視鏡検査が受けられるような医療体制が整備されていました。

## 診療の助け

○変わりが無い時ほど話を聞く、違いに気がつく事が大切

弥栄の外来では第一声は変わりが無いですという方がほとんど、しかし、話を聞くと自宅で転倒していたり、注射の後が肉芽になっていたりと、いう事がありました。

## ○残薬が無いか確認する

患者さんに聞いてみると実は全然飲んでいないことも。県立中央病院で働いている際には考えた事もありませんでしたが、患者さんは薬を飲んでいなくても外来に通ってくるという事を学びました。

## 地域・生活について考える

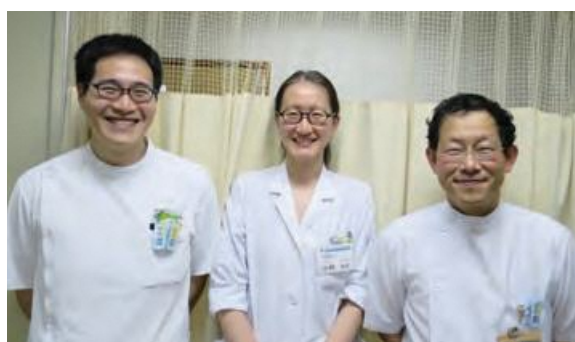
○町づくりに関わること、地域の課題を共有すること

地域に1つしかない診療所だからこそ見える課題もありました。会議や集いに参加し、知っている課題を共有、どうすればより良くなるか様々な立場の人と一緒に考える事の重要性を学びました。

○運転をやめた人はどうやって生活していく？

認知症の進行と共に運転免許を返

納。今までは浜田に買い物や通院していたがこれからはどうしたら良いかという問題が発生した際に、配達サービス、デマンドバス、シルバーカー、行商日時のお知らせなど、生活を支援する体制を学ぶ事ができました。



このように様々な事を学ぶと共に、自分の知識・技術不足を痛感した3か月でもありました。今回の研修を通して地域医療のやりがいや再確認する事ができ、今後も地域で働ける様に準備を進めて行きたいと感じました。

## しまね地域医療支援センターで

平成28年4月1日、当センターでの勤務がスタートしました。私は津和野町の職員で、こちらに来たのは研修派遣によるものです。一人暮ら

しは実に20年ぶり！初出勤の日は新人職員のような感覚だったように思います。これまで、医療関連の業務に携わったことは無かったので、「僕が良いのだろうか」とも思いましたが、経験や予備知識がほとんど無いのもある意味面白いだろうと思います。出雲の地へ赴くことを決意いたしました。当然、最初は戸惑うことが多かったです。意味のわからない言葉が飛び交うし、初期臨床研修は2年間、なんてことも知らないのですから。

しまね地域医療支援センターでは、若手医師が島根県に軸足を置いて活躍するための取り組みをオールしまねで進めていました。初期臨床研修医の合同研修会をはじめ、医学生を対象としたしまね研修ナビ、レジナビ東京・大阪出展などのイベントのほか、医師や医学生との面談など、人とのつながりに重きを置く取り組みも多く、今後二度とできないような貴重な経験をさせてもらいました。

このセンターが法人化されて5年になります。先輩職員が築いてきたものをブラッシュアップしたり、新たな取り組みを考えたり、常に変化を求められてきました。そしてここ最近では、県内の臨床研修病院にマッチする初期研修医も増えました。顔の見える関係づくりを実践してきた効果が、少しずつではありませんが表れているのだと実感しております。

ます。これらの取り組みが今後、後期研修医の増加、医師の県内定着に繋がれば非常に嬉しく思います。

私は今回の派遣において、ゼロに近い位置からのスタートであったため不安もありましたが、センターの職員はもとより、専任医師の皆様や各病院の医師並びにご担当の方、行政担当者など様々な方に支えられ、育てられた2年間だったと感じています。ここで得たものを地元を持ち帰り、『オールしまね』の気持ちも持ちつつ、今度は町民が幸せになれる、そのような取り組みができたらと思っております。

新たな専門医制度も始まり、過渡期であるがゆえにこれから想定外の事も起こるかもしれませんが、島根県民のため、医師の不足や偏在など山積する課題が解決するよう、引き続きオールしまねで協力し、難局を乗り越えましょう！

最後になりますが、私を支えてくださった皆様へ感謝を申し上げますとともに、今後ともご指導賜りますようお願いいたします。

(しまね地域医療支援センター)

清水 孝倫



島根県赤ひげバンク

facebook

はじめました！

赤ひげバンクを創設して今年で17年目。

これまで158名の先生方が赤ひげバンクを通じて島根に赴任されました。この機関紙のタイトルにもなっている「島根の地域医療」を支えていただいていることに改めて感謝申し上げます。

このたび赤ひげバンクはFacebookをはじめました。掲載する主な情報は、医師求人情報の更新のお知らせ、県内医療機関の情報、地域医療視察ツアーの様子、

事務局からのお知らせなどです。

取り上げたいネタは『えっと』ありますが、あまり気負わず『おちらと』やりたいと思います。「いいね！」やフォローしていただけると嬉しいです。

※『えっと』は島根県出雲地方の方言で「たくさん」、『おちらと』は「ゆっくり」という意味です。

**facebook「赤ひげバンク」で検索**

予告

日本小児科学会学術集会に出展します

4月20日～22日の日程で開催される第121回日本小児科学会学術集会に、「島根県赤ひげバンク」のブースを初出展します。

全国からお集まりの小児科の先生方に、島根の小児医療の魅力や赤ひげバンクの支援サービスなどをご紹介します予定です。自治体がこうした学会に出展する例は少ないようですが、しまねの医療をPRすべく、今後もこうした機会を作っていきたいと思います。

出席予定の先生がおられましたら赤ひげバンク出展のことをご紹介します。ご紹介いただければ幸いです。

会期中は、赤ひげバンク事務局の職員がおりますので、お気軽にお声がけください。

皆様のご来訪をお待ちしております。

会期：4月20日（金）～22日（日）

場所：福岡国際会議場（展示会場は2階多目的ホール）

「島根県赤ひげバンク」 小間番号：30



## 島根県で勤務していただける方を紹介してください！

友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた先生には、医療機関の情報等を提供し、U・Iターンを支援します。

## 医師募集・地域医療視察ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアー（県負担）を実施しています。お気軽にお問い合わせください。

## 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail : iryou@pref.shimane.lg.jp ホームページ : 島根の医師確保対策

携帯からの問い合わせはこちら→



検索